観点別学習状況の評価について

○ 学習評価には，児童生徒の学習状況を検証し，結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能。

○ 各教科においては，学習指導要領等の目標に照らして設定した観点ごとに学習状況の評価と評定を行う「目標に準拠した評価」として実施。

⇒きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

学力の3つの要素と評価の観点との整理

【現行】

学習評価の４観点

- 関心・意欲・態度
- 思考・判断・表現
- 技能
- 知識・理解

【以下の3観点に沿った整理を検討】

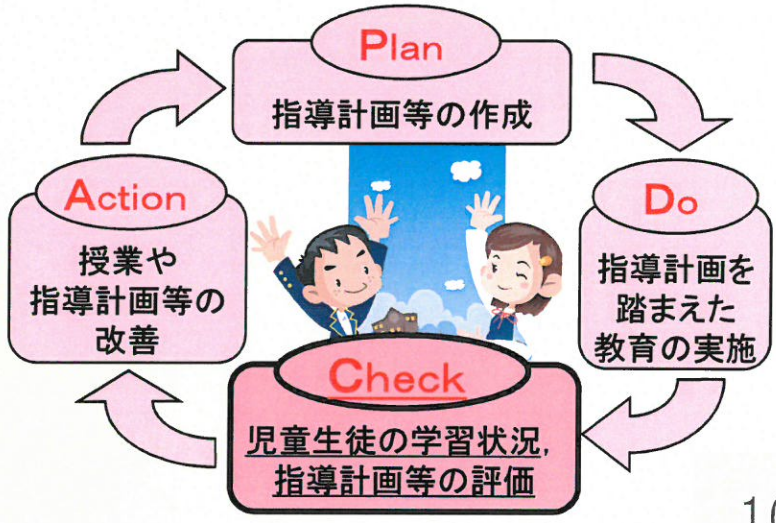
学力の３要素
（学校教育法）
（学習指導要領）

- 知識及び技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 主体的に学習に取り組む態度

学習指導と学習評価のPDCAサイクル

○ 学習評価を通じて，学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること，学校における教育活動を組織として改善することが重要。

指導と評価の一体化



観点別学習状況の評価について

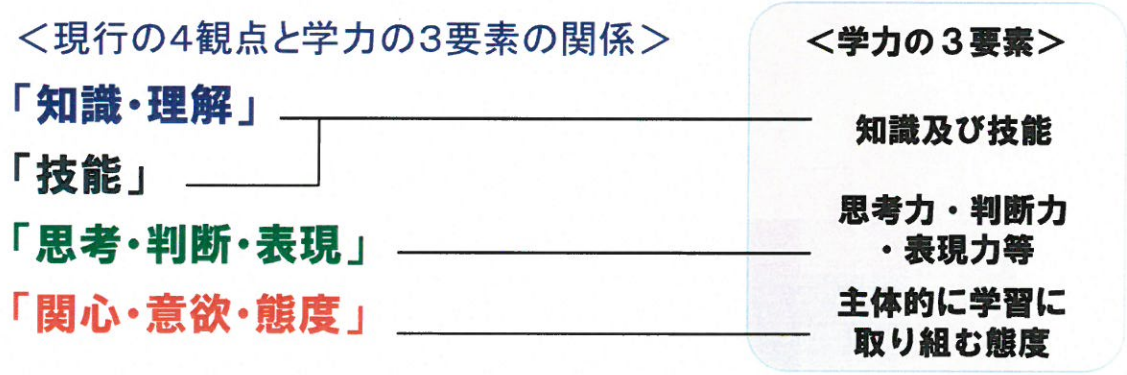
観点別学習状況の評価と評定

観点別の学習状況の評価

・各教科・科目の目標や内容に照らして、生徒の実現状況がどのようなものであるかを、**観点ごとに評価し、生徒の学習状況を分析的に捉える**もの。

・現行（平成22年指導要録通知）では、学力の三要素を踏まえ、以下の4つの観点ごとに評価（「A」「B」「C」の3段階）。

＜現行の4観点と学力の3要素の関係＞



総括的な評価としての評定

・観点別の学習状況の評価をもとに、総括的な学習状況を示すため、**5段階（小学校は3段階。小学校低学年は行わない）の評定**を行う。

・平成１２年の指導要録通知により、観点別の学習状況だけでなく、**評定についても目標に準拠した評価とする**こととした。

・各観点別の評価を評定においてどのように総括するかは、各学校の工夫が求められる。

観点別評価

例

関心・意欲・態度	B
思考・判断・表現	B
技能	B
知識・理解	B

※　3段階で評価
A：十分満足できる
B：おおむね満足できる
C：努力を要する

評定

※　小学校（第3学年以上）は3段階，中学校，高等学校は5段階で評価

5「十分満足できるもののうち，特に程度が高い」 状況と判断されるもの
4「十分満足できる」状況と判断されるもの
3「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
2「努力を要する」状況と判断されるもの
1「一層努力を要する」状況と判断されるもの